

## 4) 保護帽に関する研究 (その2)

国立療養所兵庫中央病院

奥谷 明 美 大谷 美智子  
習 田 敬 一

49年度に引き続き、保護帽に関して検討し、また実際に着用した経験を報告する。前回の調査結果から頭部や顔面の保護機能からみるとハードタイプの保護帽が優れていることが判明した。そこで当病棟患者にハードタイプとソフトタイプの試作品を実際に着用させてみたところ、ハードタイプの着用に対しては強い抵抗があり、その原因として次のものが挙げられた。①かぶり心地が悪い(痛い、きつい、頭がかゆい)、②自分でかぶれない、③脱げやすい(特に転倒時)、④格好が悪い、⑤頭髪が乱れる。従ってハードタイプは実用に適さないと結論された。そこで我々は今回、着用しやすいソフトタイプを改善することに主眼を置いた。そして、その条件として、①着脱が容易で同時に脱げにくい、②頭部、顔面を効果的に保護できる、③かぶり心地の良さ(むれない、臭いが無い、頭をしめつけない)、④洗濯が容易でかつ変形しにくい、⑤軽く、外見が良く、安価、などの点が挙げられた。市販のものでは適したものがなかったので布張り綿スポンジ製のものを特別に注文して作った。布としては合成繊維のメッシュのもので、内部のスポンジは厚さを3cm程度にして保護機能を高めた。带状のものを組合わせた形なので軽く、通気性も充分であった。これにマジックバンドを用いてアゴ当てを着脱できる様にした。これを実際に着用させたところ、保護機能の面でも、歩行時に転倒したり、車椅子上で頭を壁にぶつけても十分安全であることが保証された。

次に問題になるのは、この保護帽でも全員が自から着用するに至らぬことで、これには患児に対する、根気の良い教育、指導が必要であった。但し、アゴ当てに関しては、着用するときゅうくつなため、現在のものではなお実用的でないことが判明した。

以上、保護帽に関しては、ハードタイプは実用に適さぬこと、またソフトタイプを改良して、充分安全でかつ実用的なものの作製が可能であることを報告した。

## 5) PMD 児食事用 回転テーブルの工夫

国立療養所原病院

岡田 成子 植木 久子  
中谷 行見 他第一あゆみ病棟一同

<目 的>

ベッド生活を余儀なくされているPMD児が、自分で自由に食事摂取できることを目的として、この回転テーブルを考案試作した。

### <作成方法>

ベニヤ板、直径各々43cm、30cmの2枚の円形をとり、大きい方に使用している食器に合わせて穴をあけて、裏側にキャスター4個を等間隔に取り付ける。キャスターを内側に2枚の板をボルトとビスで個定し、ニス塗って仕上げる。

### <使用結果>

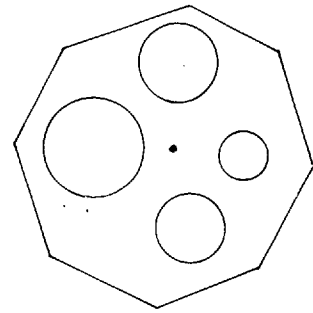
体位は効き腕を上にした側臥位とする。

#### (1) 改善点

- ① 口の位置よりテーブルの方が高く、食物がこぼれ易い。→キャスターをボールキャスターに替え、高さを低くした。
- ② 深さのある食器（汁椀等）では底の方をスプーンですくにくい。→御飯は平皿に、副食も流動物以外はなるべく浅い食器にと盛り付けをする。スプーンも重さの軽いプラスチック製のものを使用した。
- ③ 使用できる食器に限られる。→その時々に応じた盛り付けの工夫。
- ④ 置き場所に困る。→テーブルの穴に影響しない様、考慮の上で、円の丸みを落として正八角形とした。立てて保管する時ころがる心配がなく、普通にしておいてもわずかながらスペースが少なくて済む。

#### (2) 長所

- ① 食器が固定され、安定がよい。
- ② 食べたいものが自由に手前に引きよせられるので介助の手間が省け、児自身も食事動作に自信を持ち食事に対して意欲的である。
- ③ スプーン、フォークの使用や、テーブルをまわすことにより、手指の巧緻性を保持できる。
- ④ 経済的で操作簡便、こわれにくく清潔に使用できる。
- ⑤ 八角形にしたことにより、手がかりができてまわし易くなった。



### <結 び>

本テーブルはベッド生活の児を対象に考察したものであるが、改善前のテーブルを車椅子生活の中でも特に筋力低下の著明な児に使用している。回転テーブル自体はこの形態のままであっても下の台（オーバーテーブルや本病棟で活用されているベニヤ板で作った机等）の高さを調節することによって殆どどの座位生活児に利用できるのではないかと思われるが、保管の際、更にスペースをとらない工夫が残された課題である。

なお、テーブルの表面に化粧板様の加工を施せば、清潔の面からも、又美的感覚の面からもよりよい効果が得られるのではないだろうか。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

ベッド生活を余儀なくされている PMD 児が、自分で自由に食事摂取できることを目的として、この回転テーブルを考案試作した。